

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年7月8日

【四半期会計期間】 第129期第2四半期(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

【会社名】 丸八倉庫株式会社

【英訳名】 Maruhachi Warehouse Company, Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 峯島 一郎

【本店の所在の場所】 東京都江東区富岡2丁目1番9号

【電話番号】 03(5620)0809(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 宮沢 浩元

【最寄りの連絡場所】 東京都江東区富岡2丁目1番9号

【電話番号】 03(5620)0809(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 宮沢 浩元

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第128期 第2四半期 連結累計期間	第129期 第2四半期 連結累計期間	第128期
会計期間	自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	自 2023年12月1日 至 2024年5月31日	自 2022年12月1日 至 2023年11月30日
売上高 (千円)	2,494,838	2,480,378	4,972,035
経常利益 (千円)	273,515	312,938	585,202
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	190,882	205,551	412,202
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	225,601	385,429	554,247
純資産額 (千円)	10,767,447	11,386,783	11,096,093
総資産額 (千円)	18,218,983	18,167,210	18,290,726
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	32.24	34.71	69.61
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	59.0	62.5	60.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	533,013	362,692	1,147,809
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	42,601	63,012	168,607
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	471,398	471,072	848,004
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	951,463	892,253	1,063,646

回次	第128期 第2四半期 連結会計期間	第129期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2024年3月1日 至 2024年5月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.77	17.17

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社2社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復傾向にて推移しました。しかしながら、世界的な金融引き締めに伴う影響により景気下振れリスクが高まりつつあるほか、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響から内外経済の動向は不透明感が拭えない状況にあります。

このような経済情勢にあって、物流業界におきましては保管残高数量・金額ともに前年を下回る水準にて推移したほか、人手不足等に加えて燃料価格をはじめとする物価高騰等により全般的にコストが上昇しており、競争の激化等もあり、厳しい状況が続いております。また、不動産賃貸業界におきましても、景気動向等の影響に伴い、賃料水準や需給関係の各データは総じて弱含みにて推移しております。

このような状況の下、当社グループは、内外の環境変化に的確に対応しながら、さらなる成長を果たしていくために新中期経営計画（2022 - 2026）の具体的各施策を展開してまいりました。物流事業における具体的施策としては、既存倉庫の稼働率は安定的かつ高い水準にて推移しており、各種経費の削減にも取り組み、営業収益の確保に努めてまいりました。また、きめ細かなサービスを提供しながら、既存顧客との取引拡大や新規顧客の獲得に努めてまいりました。このほか、埼玉県所沢市の新規倉庫ならびに千葉県八街市の新規文書保管センターも本格的に稼働開始となり、将来の収益力増強に向けて事業基盤の増強も図られつつあります。不動産事業における具体的施策としては、賃貸マンションや賃貸オフィスビル等が安定的に稼働しており、不動産賃貸料収益の増加に努めてまいりました。

この結果、売上高は物流事業収入・不動産事業収入とともに前年を下回り、前期比14百万円（0.6%）減の2,480百万円となりました。また、営業利益は各種経費の削減に努めた結果、前期比32百万円（11.7%）増の314百万円となり、経常利益は前期比39百万円（14.4%）増の312百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前期比14百万円（7.7%）増の205百万円となりました。なお、新中期経営計画の主要指標であるEBITDA（償却前利益）は前期比32百万円（5.8%）増の599百万円となりました。

セグメント別の経営成績は、次の通りであります。

物流事業

物流事業では、保管料収入・荷役料収入が前年同期比で増加したものの、雑収入等が減少したことにより売上高は前期比12百万円減の2,164百万円となり、セグメント利益は前期比5百万円減の360百万円となりました。

不動産事業

不動産事業では、賃貸マンション・賃貸オフィスビルが安定的に稼働したことにより売上高はほぼ前期比並みの316百万円となり、セグメント利益は経費削減効果等により前期比23百万円増の152百万円となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金等の減少により、前期末比123百万円減少の18,167百万円となりました。負債は、長期借入金の返済等により前期末比414百万円減少の6,780百万円となり、純資産は前期末比290百万円増加の11,386百万円となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は62.5%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローの増加、投資活動によるキャッシュ・フローの減少ならびに財務活動によるキャッシュ・フローの減少に伴い、期末における現金及び現金同等物の残高は前期末比171百万円減の892百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益308百万円の計上や減価償却費285百万円の計上等による資金留保により営業活動によるキャッシュ・フローは362百万円の増加（前年同期比170百万円減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

各営業所の物流設備等の有形固定資産の取得による支出43百万円の計上等により、投資活動によるキャッシュ・フローは63百万円の減少（前年同期比20百万円減）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の約定返済による支出、配当金の支払い計上の結果、財務活動によるキャッシュ・フローは471百万円の減少（概ね前年同期比と同水準）となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 主要な設備

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,200,000
計	19,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年7月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,300,000	7,300,000	東京証券取引所 スタンダード	単元株式数は100株でありま す。
計	7,300,000	7,300,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2024年3月1日～ 2024年5月31日	-	7,300	-	2,527,600	-	2,046,936

(5) 【大株主の状況】

2024年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
尾張屋土地株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町12-16	1,639,203	27.68
山崎商事株式会社	東京都江東区千石1丁目3-8	400,150	6.76
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6-4	327,400	5.53
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区赤坂1丁目8番1号赤坂インターシ ティA I R)	205,000	3.46
養命酒製造株式会社	東京都渋谷区南平台町16-25	200,000	3.38
有限会社藍屋	埼玉県入間郡三芳町大字上富287	177,500	3.00
峯 島 一 郎	東京都千代田区	174,518	2.95
ホーチキ株式会社	東京都品川区上大崎2丁目10-43	155,000	2.62
大豊建設株式会社	東京都中央区新川1丁目24-4	140,000	2.36
有限会社八峯	東京都中央区日本橋大伝馬町12-16	132,000	2.23
計		3,550,771	59.97

- (注) 1. 上記のほか当社保有の自己株式1,378,807株があります。
2. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,378,800		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,918,400	59,184	同上
単元未満株式	普通株式 2,800		同上
発行済株式総数	7,300,000		
総株主の議決権		59,184	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の7株が含まれております。

【自己株式等】

2024年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 丸八倉庫株式会社	東京都江東区富岡2-1-9	1,378,800		1,378,800	18.89
計		1,378,800		1,378,800	18.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2024年3月1日から2024年5月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年12月1日から2024年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,063,646	892,253
受取手形及び営業未収入金	314,190	315,920
その他	91,104	96,307
流動資産合計	1,468,941	1,304,482
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,947,572	7,741,048
機械装置及び運搬具（純額）	378,239	352,365
土地	5,969,348	5,969,348
その他（純額）	124,627	119,740
有形固定資産合計	14,419,788	14,182,503
無形固定資産		
借地権	72,372	72,372
その他	28,627	24,562
無形固定資産合計	100,999	96,935
投資その他の資産		
投資有価証券	1,557,502	1,816,081
差入保証金	440,651	437,832
会員権	9,978	9,978
退職給付に係る資産	127,506	143,144
繰延税金資産	18,019	17,923
その他	147,338	158,328
投資その他の資産合計	2,300,997	2,583,289
固定資産合計	16,821,785	16,862,727
資産合計	18,290,726	18,167,210

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	122,159	127,871
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	772,940	752,940
未払金	5,523	5,453
未払費用	106,718	97,260
未払法人税等	143,483	118,242
未払消費税等	150,684	50,853
前受金	190,747	193,830
その他	9,414	10,314
流動負債合計	1,601,671	1,456,766
固定負債		
長期借入金	4,266,834	3,910,364
繰延税金負債	581,203	660,380
役員退職慰労引当金	123,460	127,184
長期預り保証金	599,276	603,543
その他	22,187	22,187
固定負債合計	5,592,962	5,323,659
負債合計	7,194,633	6,780,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,527,600	2,527,600
資本剰余金	2,046,936	2,046,936
利益剰余金	7,275,609	7,386,422
自己株式	1,189,964	1,189,964
株主資本合計	10,660,181	10,770,994
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	408,667	588,069
その他の包括利益累計額合計	408,667	588,069
非支配株主持分	27,244	27,719
純資産合計	11,096,093	11,386,783
負債純資産合計	18,290,726	18,167,210

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年12月1日 至2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年12月1日 至2024年5月31日)
売上高	2,494,838	2,480,378
売上原価	1,909,960	1,883,158
売上総利益	584,878	597,219
販売費及び一般管理費	303,686	283,188
営業利益	281,191	314,031
営業外収益		
受取利息	57	141
受取配当金	5,910	11,549
補助金収入	2,750	1,452
その他	1,615	1,440
営業外収益合計	10,333	14,582
営業外費用		
支払利息	17,447	15,675
その他	561	-
営業外費用合計	18,009	15,675
経常利益	273,515	312,938
特別利益		
有形固定資産売却益	16,332	454
特別利益合計	16,332	454
特別損失		
有形固定資産除却損	0	4,420
特別損失合計	0	4,420
税金等調整前四半期純利益	289,847	308,973
法人税等	98,189	102,946
四半期純利益	191,658	206,027
非支配株主に帰属する四半期純利益	775	475
親会社株主に帰属する四半期純利益	190,882	205,551

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	191,658	206,027
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	33,942	179,402
その他の包括利益合計	33,942	179,402
四半期包括利益	225,601	385,429
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	224,825	384,954
非支配株主に係る四半期包括利益	775	475

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	289,847	308,973
減価償却費	285,906	285,965
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	1,310	15,637
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	15,281	3,724
災害損失引当金の増減額(は減少)	5,985	-
受取利息及び受取配当金	5,967	11,690
支払利息	17,447	15,675
有形固定資産売却損益(は益)	16,332	454
有形固定資産除却損	0	4,420
売上債権の増減額(は増加)	15,941	1,730
その他の資産の増減額(は増加)	9,866	221
仕入債務の増減額(は減少)	10,982	5,712
未払消費税等の増減額(は減少)	67,768	99,831
その他の負債の増減額(は減少)	25,822	3,635
小計	597,799	491,712
利息及び配当金の受取額	5,967	11,690
利息の支払額	17,536	15,721
法人税等の支払額	53,216	124,988
営業活動によるキャッシュ・フロー	533,013	362,692
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	63,764	43,569
有形固定資産の売却による収入	26,458	563
無形固定資産の取得による支出	1,975	-
固定資産の除却による支出	-	4,420
差入保証金の差入による支出	73	1,425
差入保証金の回収による収入	3,000	4,244
長期前払費用の取得による支出	6,234	17,671
その他の支出	14	784
その他の収入	-	50
投資活動によるキャッシュ・フロー	42,601	63,012
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	376,490	376,470
配当金の支払額	94,908	94,602
財務活動によるキャッシュ・フロー	471,398	471,072
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	19,013	171,392
現金及び現金同等物の期首残高	932,449	1,063,646
現金及び現金同等物の四半期末残高	951,463	892,253

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
報酬及び給与	121,911千円	113,990千円
法定福利費	27,687千円	28,719千円
退職給付費用	5,321千円	2,323千円
賞与	19,232千円	20,945千円
役員退職慰労引当金繰入額	8,372千円	7,864千円
支払手数料	32,487千円	28,915千円
賃借料	14,596千円	14,596千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
現金及び預金	951,463千円	892,253千円
預入期間が3か月超の定期預金	-千円	-千円
現金及び現金同等物	951,463千円	892,253千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月22日 定時株主総会	普通株式	94,739	16	2022年11月30日	2023年2月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月28日 定時株主総会	普通株式	94,739	16	2023年11月30日	2024年2月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	物流事業	不動産事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,349,004	17,937	1,366,942		1,366,942
その他の収益	827,452	300,444	1,127,896		1,127,896
外部顧客への売上高	2,176,457	318,381	2,494,838		2,494,838
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	2,176,457	318,381	2,494,838		2,494,838
セグメント利益	366,053	129,315	495,368	214,177	281,191

(注) 1. セグメント利益の調整額 214,177千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	物流事業	不動産事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,342,566	16,877	1,359,444		1,359,444
その他の収益	821,495	299,439	1,120,934		1,120,934
外部顧客への売上高	2,164,061	316,316	2,480,378		2,480,378
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	2,164,061	316,316	2,480,378		2,480,378
セグメント利益	360,549	152,934	513,484	199,452	314,031

(注) 1. セグメント利益の調整額 199,452千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであり
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	32円24銭	34円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	190,882	205,551
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	190,882	205,551
普通株式の期中平均株式数(株)	5,921,194	5,921,193

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

固定資産の譲渡

当社は、2024年7月5日開催の取締役会において、当社が保有する原宿商業ビルの土地建物を売却することを決議いたしました。

(1) 譲渡理由

経営資源の有効活用と資産効率の向上を図るため、以下の資産を譲渡することといたしました。

(2) 譲渡資産の概要

資産の名称 リズ原宿
所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目4-13
譲渡益(見込み) 696百万円
現況 商業ビル

(3) 譲渡先の概要

譲渡先につきましては、国内の一事業法人であります。譲渡先の意向により開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社の間には、記載すべき資本関係、人的関係、取引関係はありません。また、関連当事者にも該当しません。

(4) 譲渡の日程

取締役会決議日 2024年7月5日
売買契約締結日 2024年7月中旬(予定)
物件引渡日 2024年9月中旬(予定)

(5) 損益に与える影響

固定資産譲渡に伴い、2024年11月期第4四半期において特別利益(固定資産売却益)696百万円を計上する見込みです。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月8日

丸八倉庫株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松 亮 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堤 康 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている丸八倉庫株式会社の2023年12月1日から2024年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、丸八倉庫株式会社及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。